

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 14 日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330220

研究課題名(和文) 1880年代におけるエリート養成機能形成過程の研究 - 高等中学校成立史を中心に -

研究課題名(英文) Study on the process of the formation of Elite training function in 1880s

研究代表者

荒井 明夫 (ARAI, AKIO)

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：60232005

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,900,000円、(間接経費) 2,670,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の最大の成果は、高等中学校研究の新たな地平を切り開いた点にある。従来、高等中学校とは、帝国大学に接続する予備機関として捉えられていた。本研究では、高等中学校は帝国大学に接続する学校としてのみ捉えるのではなく、地域史的視点から捉え直すことができた。高等中学校は、医学校など府県単位で設置された専門教育機関が、やがて府県連合出の設置形態を経て高等中学校に収斂された性格をもつなど当該地域の社会的必要性に対応していたのである。

研究成果の概要(英文)：The most valuable result of our studies is to open a new view of study about KOUTOU-CHUUGAKKOU. Our studies have been able to show their social role's as necessity of local societies.

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：1880年代 エリート アーティキュレーション 高等中学校 地域 近代化 専門教育 尋常中学校

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究当初、研究代表者及び分担者の共通課題意識は、教育史研究上の最大の論点である初代文相・森有礼文政の歴史的意義の解明であり、その目標のための差し当たったの目的は、森文政で初めて登場した高等中学校を新たな視点で解明する試みであった。従来の研究では、森文政の歴史的評価を、1886年の諸学校令を専ら森個人の業績と捉え、且つ森の教育思想から説明してきた。本研究では、森文政を、1880年代の教育政策・教育構想の総決算と位置付ける仮説を採用し、それ以前の地域史的展開との連続性を重視した。

(2) 明治維新以後、国家社会の殖産興業・富国強兵を担うエリート層の育成は、国家にとっての焦眉の課題であった。1880年代、小学校が不十分ながらも地域に普及し中学校は次第に整備され、「人材吸収ネットワーク」の基盤が徐々に形成されていく。同時に専門教育機関が各地に設立され、中央政府ではエリート養成機関の文部省移管や東京大学との合併など、一元化の方向性が志向される。1880年代のこの流れの中、森有礼文相期に帝国大学と、普通教育と専門教育の二つの性格を合わせもつ高等中学校が登場した。

(3) 森文政の一つの象徴は、1886年に登場した高等中学校にある。従来、高等中学校は、帝国大学に進学するエリート養成機関としてのみ捉えられてきたが、それでは「中学校」であることの説明ができない。本研究では1880年代のエリート養成機能の総決算、すなわち、1880年代の専門教育機関との連続性を重視した。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、近代日本におけるエリート養成機能の形成過程を、特に1880年代の明治国家体制成立過程と関連付けて考察し、それを通じて未だ未解明の課題である初代文相・森有礼文政の歴史的意義を解明することにある。

(2) その目的のため、1886(明治19)年「中学校令」で登場した高等中学校を対象とする。従来、高等中学校は帝国大学に接続する教育機関としてのみ位置付けられてきた。しかし1880年代に地方では多様な専門教育機関が整備される。本研究は、地域における専門教育機関の統廃合の帰結として高等中学校を位置付けその意義を解明した。

3. 研究の方法

4つの柱を立て研究をすすめてきた。

(1) 高等中学校に関する総合的な研究である。つまり七つの高等中学校の社会的機能(入学者の階層分析・地域の尋常中学校との接続関係・高等中学校の教育内容・卒業生の進路等)に関する史料発掘と分析である。さらに高等中学校関係者、とりわけ校長経験者の個人文書や学校関係文書・関係自治体公文書の発掘と分析、整理である。

(2) 1880年代文部省内政策立案過程分析や文部大臣・文部官僚の個人研究である。具体的には当該時期の文部省および府県の教育政策立案過程の解明である。(3) 1880年代の専門教育機関の地域教育史的研究である。例えば第三高等中学校医学部が設置された岡山県と近隣諸県の医学専門学校との関係などの実態の解明。

(4) 1880年代の中学校初等科と高等科、さらにそれらと大学予備門・大学分校との接続関係の具体的な分析である。

4. 研究成果

(1) 高等中学校を帝国大学に接続する学校として捉えるのではなく、地域史的視点から捉え直すことにあった。それを通じて高等中学校の設立と機能を解明し、中学校であることの意味を明らかにし、高等中学校を一八八〇年代の教育政策および制度構想の帰結として位置付けようとした。その結果、全7校の史料調査を終え、研究成果は会員の著書や論文として公表し、従来とは全く異なって、帝国大学の接続・帝国大学の予備教育機関としてではなく、高等中学校設置区域内府県の専門教育機関の統廃合の中で位置付けることに成功した。

(2) それを通じて、森文政とは、森の教育思想・制度構想の帰結ではなく、1880年代の教育政策・構想の帰結であることを示すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計23件)

(2013年度)

荒井 明夫、文部省管理山口高等学校・鹿児島高等学校造士館主要史料の解題、「一八八〇年代教育史研究年報」第5号、2013、査読有、pp65-81

荒井 明夫、一八八〇年代教育史研究会のこれまでの研究成果と今後の研究課題について、「一八八〇年代教育史研究年報」第5号、2013、査読有、pp1-2

小宮山 道夫、史料紹介・千葉県会議事録(明治二十年度)、「一八八〇年代教育史研究年報」第5号、2013、査読有、pp47-63

田中 智子、戦時同志社史再考、「キリスト教社会問題研究」第62号、2013、査読有、pp135-154

田中 智子、「倫理書」編纂過程の再検討、「教育史フォーラム」第8号、2013、査読有、pp23-42

田中 智子、「北陸」における官立学校設置問題の展開、「北陸史学」第61号、2013、査読有、pp1-26

富岡 勝、第一高等中学校寄宿舎自治制導入過程の再検討(その三)、「一八八〇年代教育」第5号、2013、査読有、pp121-130

谷本 宗生、東京大学予備門・第一高等中学校の学校医(摂生室医員)の存在について、「一八八〇年代教育史研究年報」第 5 号、2013、査読有、pp109-120

畠岡 勝、第一高等中学校寄宿舎自治制導入過程の再検討(その五)、「一八八〇年代教育史研究年報」第 5 号、2013、査読有、pp83-107

三木 一司、赤城通弘「明治二十年六月造士館騒動」、「近畿大学九州短期大学紀要」第 43 号、2013、査読無、pp65-71

(2012 年度)

荒井 明夫、就学督責研究ノート(一)、「一八八〇年代教育史研究年報」第 4 号、2012、査読有、pp129-147

小宮山 道夫、史料紹介・千葉県会議事録(明治十九年度)、「一八八〇年代教育史研究年報」第 4 号、2012、査読有、pp61-77

田中 智子、京都府における実業教育構想の形成、「一八八〇年代教育史研究年報」第 4 号、2012、査読有、pp27-46

田中 智子、京都看病婦学校開設運動の再検討、「キリスト教社会問題研究」第 61 号、2012、査読有、pp13-42

畠岡 勝、第一高等中学校寄宿舎自治制導入過程の再検討(その四)、「一八八〇年代教育史研究年報」第 4 号、2012、査読有、pp79-127 (2011 年度)

小宮山 道夫、高等中学校と尋常中学校との接続に関する研究、「一八八〇年代教育史研究年報」第 3 号、2011、査読有、pp.61-87

谷本 宗生、試論・第四区における高等中学校設置をめぐる地域事情について、「一八八〇年代教育史研究年報」第 3 号、2011、査読有、pp89-99

畠岡 勝、第一高等中学校寄宿舎自治制導入過程の再検討(その三)、「一八八〇年代教育史研究年報」第 3 号、2011、査読有、pp101-115

(2010 年度)

荒井 明夫、近代日本におせるアーティキュレーション形成史序説、「一八八〇年代教育史研究年報」第 2 号、2010、査読有、pp83-106

小宮山 道夫、九州北部からの第五高等中学校進学に関する考察 - (1)長崎県の事例 -、「教育学研究紀要」中国四国教育学会第 56 巻、2010、査読有、pp.244-249

21田中 智子、第三高等中学校設置区域内府県委員会の実態と意義、「一八八〇年代教育史研究年報」第 2 号、2010、査読有、pp27-53

22田中 智子、中野実「近代日本大学制度の成立」精読、「一八八〇年代教育史研究年報」過程の再検討(その二)、「一八八〇年代教育史研究年報」第 2 号、2010、査読有、pp55-82

23谷本 宗生、戦前期の大学総長の人物像、「東京大学史史料室ニュース」第 44 号、2010、査読無、pp4-5

[学会発表] (計 3 件)

田中 智子、「北陸」における官立高等教

育機関設立構想の展開、北陸史学会での発表、2012 年 11 月 25 日 (於石川県立博物館)

荒井 明夫、日本における国家の近代化と教育の近代化、教育史学会第 54 回大会国際シンポジウムでの報告、2010 年 10 月 09 日於早稲田大学、

畠岡 勝、森文政期の帝国大学と第一高等中学校における寄宿舎方針、中等教育史研究会第 48 回例会、2010 年 10 月 08 日 (於早稲田大学)

[図書] (計 4 件)

荒井 明夫、山形県における尋常中学校の設立、神辺靖光編「明治期尋常中学校設立史 - 東日本編」第五章、梓出版社、2014 年刊行予定、総ページ 448 ページの内 pp239-275

田中 智子、高等中学校制度と地方都市、高木博志他編「近代日本の歴史都市 - 古都と城下町」思文閣出版、2013 年、総ページ 580 ページの内 pp515-545

田中 智子、近代日本高等教育体制の黎明、思文閣出版、2012 年、総ページ 421 ページ

荒井 明夫、明治国家と地域教育、吉川弘文館、2011 年、総ページ 434 ページ。

[産業財産権]

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

荒井 明夫 (ARAI , AKIO)

大東文化大学・文学部・教授

研究者番号：60232005

(2) 研究分担者

小宮山 道夫 (KOMIYAMA , MICHIO)

広島大学・文書館・准教授

研究者番号：60314720

田中 智子(TANAKA, TOMOKO)
同志社大学・人文科学研究所・助教
研究者番号:00379041

谷本 宗生(TANIMOTO, MUNEO)
東京大学・教育学研究科・助教
研究者番号:90301192

富岡 勝(TOMIOKA, MASARU)
近畿大学・教職教育部・教授
研究者番号:50303798

三木 一司(MIKI, KAZUSHI)
近畿大学九州短期大学部・准教授
研究者番号:60304705

(3)連携研究者

()

研究者番号: